

### 1. 技術を学ぶねらい

- (1) 生活に役立つ技術に関する「基本知識」や「技能」、生活をより良くするための「創造」や「工夫」を身につける。
- (2) 実際に生活に役立つ作品（教材）より、自ら課題を設定し解決する力をつける。また、完成した時の達成感や充実感を味わい、作る喜びを実感する。

### 2. 学習方法

- (1) 授業や学習の基本は、授業規律の成立からです。忘れ物をしない、チャイムで始められる、私語なく黙って先生の話聞ける、準備や片づけを自主的にできる、などの学習の基本を身につけることから始まります。
- (2) 授業の進め方
  - ・座学では、教科書とハンドノートを中心に必要な基本的知識を身につけます。
  - ・実習では、授業の目標や作業内容を確認し、作業後にその日の振り返りを行います。
- (3) 定期考査は、授業の学習内容より出題します。
- (4) 課題は授業で習ったことを用い、しっかり考え抜いて取り組みましょう。

### 3. 持ち物、忘れものなどについて

- (1) 持ち物について、①教科書 ②ハンドノート ③タブレットPCが基本です。  
※ハンドノートは、授業後回収し、定期考査前に返却します。  
(出席確認・持ち物点検をします。)
- (2) 服装は基本的に標準服ですが、作業内容によりジャージを着て、行う場合があります。

### 4. 学習の評価内容と評価方法

- ① 第一観点：「知識・技能」  
(実習に伴う知識と理解・ハンドノート・課題プリント・定期考査・作業の準備や片付け・提出物作業手順の正しさ・工具や機械の使い方・作品の完成度)
- ② 第二観点：「思考・判断・表現」  
(作品の工夫やアイデア・ハンドノート・課題プリント・振り返りの記入内容・定期考査)
- ③ 第三観点：「主体的に学習に取り組む態度」  
(課題プリント・ハンドノート・授業や作業への取り組み)

### 5. 先生からのアドバイス

- ★ 授業中は安全第一に行動し、意欲的に取り組むようにしましょう。
- ★ 課題は必ず期限を守って提出しましょう。
- ★ 作品は必ず完成させるようにしましょう。

6. 技術科 2学年/年間学習計画 (概要)

学期	月	単元名・学習内容	学習の目標	評価方法
1	4 5 7	<エネルギー変換の技術> エネルギー資源の利用 電気の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然界にあるエネルギー源から電気エネルギーへの変換方法と安定した電力供給の仕組みを説明できる。</li> <li>算出した変換効率に基づき、エネルギー変換、効率及び損失の意味や省エネルギーの重要性を説明できる。</li> <li>発電システムは、エネルギー変換効率だけでなく、稼働率やコスト、環境負荷等にも配慮して設計されていることに気付くことができる。</li> <li>防災用品に込められたエネルギー変換の技術に関する工夫を読み取り、エネルギー変換の技術の見方・考え方に気付くことができる。</li> <li>電源の種類とそれぞれの特徴を、電気の特性等の原理・法則に基づき説明することができる。</li> <li>電気エネルギーを、光や熱、動力、音、信号に変換する仕組みを説明することができる。</li> <li>電気回路を回路図を使って表すことができ、電気回路の特性や電流の流れを制御する仕組みについて説明することができる。</li> <li>電気機器の定格に基づき、安全に利用するための仕組みを説明することができる。</li> <li>工具等を適切に用いて、電気機器の保守点検を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察</li> <li>ハンドノート、課題プリントの記入と提出</li> <li>発言や意見の積極性</li> <li>定期考査</li> <li>回路図を正確に理解しているか</li> </ul>
2	9 ~ 12	運動の利用 エネルギー変換による問題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>動力を伝えるための仕組みとそれらの特徴を説明することができる。</li> <li>運動を変化させる技術の仕組みや、力や運動を保存し利用する技術の仕組みについて説明することができる。</li> <li>機械部品を固定する方法や、共通部品の規格について説明することができる。</li> <li>機械を適切に保守点検することができる。</li> <li>動力伝達の仕組みを説明できる。</li> <li>製作に必要な図を書き表すことができる。</li> <li>安全で適切な製作、実装、点検及び調整ができる。</li> <li>エネルギー変換の技術を利用することで実現される持続可能な社会を説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察</li> <li>ハンドノート、課題プリントの記入と提出</li> <li>発言や意見の積極性</li> <li>安全に配慮して作業をしているか</li> <li>工具や機械の適切な使用と評価</li> <li>定期考査</li> </ul>
3	1 3	<生物育成の技術> 生活や社会と生物育成の技術 さまざまな生物育成の技術 生物育成の技術による問題解決 これからの生物育成の技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>作物、動物及び水産生物の成長、生態などについての科学的な原理・法則を説明できる。</li> <li>生物の育成環境を調節する方法などの基礎的な技術の仕組みを説明できる。</li> <li>育成計画に沿い、観察や検査の結果を踏まえ、安全・適切に育成環境の調節や、作物の管理・収穫ができる。</li> <li>これまでの学習を踏まえ、生物育成の技術の役割や影響、最適化について説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察</li> <li>ハンドノート、課題プリントの記入と提出</li> <li>安全に配慮して作業をしているか</li> <li>工具や機械の適切な使用と評価</li> <li>定期考査</li> </ul>